

## 地域医療における看護の質向上を目指した実践及び研究の協働事業

事業代表者 毛利聖子

令和2年度に、患者の個別にそつた質の高い看護の提供をめざし、ナイチンゲール看護論を適用した事例検討会を核に据え、その成果を研究発表という形で可視化し、実践と研究を並行で行う本事業を立ち上げました。

西都児湯地区郡では、西都児湯医療センターを中心に事例検討会を積み重ねてきており、周辺地域の施設からの参加も増え、地域での連携も進んできました。令和4年度には、県内に取り組みの輪を上げようと、看護の質向上に向けた公開講座を開催し、令和5年度からは平和台病院とも事例検討会を始めています。



参加者からは、下記のような声を頂いています。

\* 参加するたびに、スタッフが優しい思いを持って 患者さんへ関わっていることが分かり、この仕事をしていることの意義やりがいを感じられてほっこりします。今後の患者さんとの関わりの中で学びを実践していけるようがんばります

\* 病棟で患者さんと関わる際に、生活背景まで情報をとっているつもりだったけど、全体像・立体像を描く中で、自分の情報収集ではここまでしかとれていなかったらうな、もっと、この部分を踏み込んでいきたいなという事があつた。今後、患者さんの持てる力、強みに気づいていけるように関わりたいと思つた。

\* 患者の健康の段階を考えると、事例は挙げたもののボヤツとしていた霧がはれるように感じました。すると、患者に対して何が必要か、何ができるか必然的に見えてきました。

\* 事例検討を通して、患者さまの見える症状だけに目がいつてしまい、想像力(患者さまの立場にたつて、妻の立場に立つて)考えられていなかったと感じました。今後は、想像力ができて、全体像がわかるようになります。